巻頭言

# 旅の味わい

立教大学チャプレン　斎藤　徹

温かな日差しの中、キャンパス内を歩いていると、新たな時の始まりを肌で感じます。新入生勧誘活動で部やサークルの話を聞く学生たち、新しい制服に身を包んだ生徒たち、少しランドセルが大きく見える児童たち。その初々しい顔がこれからの時に期待と緊張を抱えているように見えました。

新入生のみなさん、ようこそ立教へ！

キリスト教が信仰の源とする聖書には、旅をした人がたくさん登場します。イスラエルの父と呼ばれるアブラハム、エジプトから多くの民を導き上ったモーセ、その後を継いだヨシュア、何度も宣教の旅に出たパウロ、そしてイエス・キリストも弟子たちと旅をした方でした。挙げればきりがないのですが、皆に共通していることは、定まりがない「旅」であったということです。日々、食べるものも、寝るところも決まっているわけではなく、正確な地図もなく、ガイドがいるわけでもありません。新しい場所に自分の足を踏み入れ、自分の足で進んでいく以外に方法がなかったのです。きっと期待も不安もたくさん感じながらの旅だったことでしょう。その旅路には、聖書には書かれていないような予想外の出来事がたくさんあって、失敗や後悔が伴うことが多くあったであろうことは想像に難くありません。ではその旅は誤りだった、しなければ良かったものだったのでしょうか。私はそうは思わないのです。

聖書に登場する旅人たちの旅は、楽しむための旅行ではなく、生きることそのものでした。神の導きによって、与えられた命を生きていく、それが彼らの旅路でした。

私たちの人生は、よく旅に例えられます。旅をするからには、どこを目的地とし、どの道を通って進むか、どこで食事をし、いつ休憩するかなど、計画があります。だけれども、旅路には思いもよらない出来事がたくさんあって、険しい道を通らなければならない日があったり、夕立に遭う日があったり、なかなか計画通り、思い描いた通りの旅を続けることができません。色々な出来事の中で、失敗することも、後悔することもあります。しかしそれも旅の味、生きることの味わいなのです。

私たちの旅の目的は、失敗しないこと、後悔しないことではなく、自分の時を刻んでいくこと。考えて行動し、色々な人に出会い、たくさんのことを学んで、さまざまな景色を自分の心に収めていく、それが、神が与えられた命を生きること、祝福に満ちた旅路を歩んでいくことなのではないでしょうか。

立教は聖書が語る想いを受け、みなさんが生きることを心から応援している学校だと、私は感じています。そしてその想いをもってチャペルでは日々祈りが献げられています。みなさんが個性ある「わたし」を生きていくことに懸命になり、ときに苦悩や失敗が伴ったとしても、そのみなさんの生きる姿は歓迎されます。みなさんが立ち止まっても、つまずいても転んでも、「わたし」であろうとする姿は大切にされています。だからみなさんには、神に祝福された旅路を歩み、自分の物語を紡いでいくことを存分に楽しんでいただきたいと思うのです。

みなさんの旅には、これからどのような出来事、出会い、学び、景色が待っているでしょう。与えられた命を生きていくことによって新しいページが彩られていき、旅の地図の広さ深さが豊かなものにされていくようにと祈っています。